

I 研究について

1 本校の実態と課題について

昨年度、本校では「危険を予測し被害を予防するとともに、メディアを安全に使うための知識・技能を身に付ける情報モラル教育の在り方の研究」というテーマを設定し、生徒がメディアを使う上で起こりうるトラブルを予想し、回避したり、起きたトラブルに対処したりする方法を学ぶ授業実践を行った。その結果、自己と他者との間には、受け取り方や考え方に「ずれ」が生じることを理解し、メディアを利用しながらより良い人間関係を築くための、伝え方や関わり方を意識するようになってきた。一方で、生徒が個々の課題を自分事として捉え、実践力を養っていくために学校と家庭がどのように連携していけば良いかについては課題が残った。

2 手立てについて

今年度は、本校の実態や課題を踏まえ、テーマを「メディアを利用する際の生徒の自律に向けた、情報モラル教育の在り方の研究」とした。情報モラルを身に付けるだけでなく、確かな実践力を養い、生徒自身がメディア利用の際の危険を予測し、回避できることをねらいとした授業を計画した。

3 実践計画について

時 期	実 施 内 容 (☆：教職員向け ★：生徒向け)
5月23日	☆第1回情報モラル教育 校内研修会「研究テーマ・研究の進め方について」
7月4日	★☆外部講師による情報モラル講演会(全学年)
8月25日	☆第2回情報モラル教育 校内研修会「2学期の取り組みについて」
10月11日	★第1回 校内授業研究会(第3学年 学級活動)
11月29日	★第2回 校内授業研究会(第2学年 学級活動)
12月8日	★ふくしま情報モラル診断の実施(全学年)
12月22日	☆第3回情報モラル教育 校内研修会「実践のまとめと次年度に向けて」

Ⅱ 研究の実際について

1 校内での実践

○外部講師による情報モラル講演会（7月4日 全学年で実施）

医療創生大学の中尾剛教授をお招きし、メディアが健康に与える影響の事例や、スマートフォンやタブレットなどの適切な使い方について、特に、小中学生のメディア利用時間や、インターネットやゲーム、SNS 依存の危険性について学んだ。困ったときには、「立ち止まり、考え、相談する」ことが大切であるという生徒の感想が多く見られた。

江名中学校の生徒も、メディアを長時間利用したり、アプリゲームや SNS 等を利用したりする際の危険性について知る生徒が多い。しかし、自身の生活でメディアを自律して使うことができている生徒は少ないので、深く考える良い機会となった。



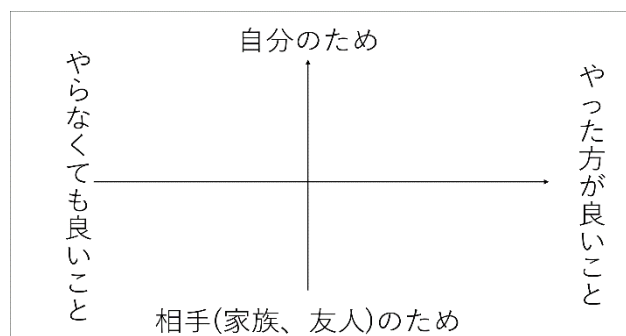
2 校内授業研究会での実践等

（1）第3学年 学級活動「メディア利用を含めたタイムマネジメント力の育成」の実際

本時では、自律したメディア利用を意識させたタイムマネジメント力を身につけさせるため、生徒が自分の時間の使い方を見直し、優先順位を明確化したうえで、一日のスケジュールを作る活動を行った。

①ICT を活用し、自身の時間の使い方を知る。

Jamboard を活用し、自分の一日の行動を1つずつ付箋にまとめ、マトリックス上に整理する活動を行うことで、自身における優先項目を可視化した。その際、マトリックス上には、横軸に「やった方がよいこと」・「やらなくてもよいこと」、縦軸には「自分



のため」・「相手(家族、友人)のため」と設定した。また、メディアに関する項目は付箋の色を「赤色」にし、視覚的に特徴が分かりやすくなるように工夫した。マトリックス完成後、オクリンクを使いクラスで共有した。

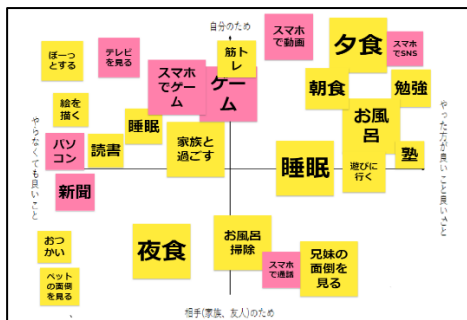


②マトリックスを参考に、一日のスケジュールを作成する。

自身のマトリックスだけでなく、友達の考えたものも参考にした上で、自分の生活を見直し、一日のスケジュールを立てた。生徒は、今までは「家に帰ったら自由時間ばかりだったが、受験のことを考えて、やるべきことを優先させながら作った」や「友達の計画を見て、睡眠や家族との時間を大切にしていたので、自分も取り入れてみた」など、自己の生活を見直し、メディア利用も意識したスケジュールを作成していた。



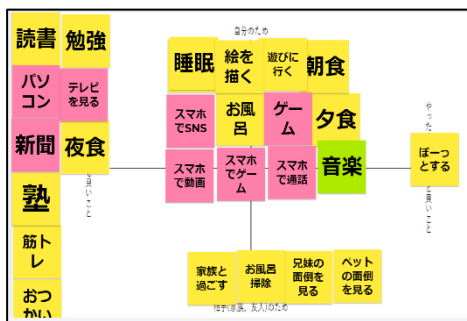
(スケジュール例1)



(月)	17	18	19	20	21	22	23	24	1	2	3	4	5	6	7
	スマホ	スマホ	勉強	勉強	勉強	勉強	通話	スマホ		寝				お風呂	学校

- 工夫した点
メディアを利用する時間が多いことに気付き、家族との時間を大切にしたいと考えた。

(スケジュール例2)



(月)	17	18	19	20	21	22	23	24	1	2	3	4	5	6	7
	夜飯	風呂		勉強		勉強	勉強			寝				朝飯	学校

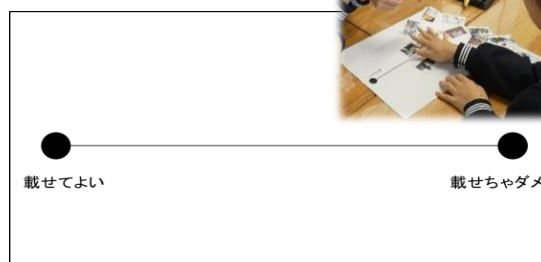
- 工夫した点
自分の立場を改めて考え、優先順位を付けた。自分がリラックスできることに時間を割いた。

(2) 第2学年 学級活動「SNS 利用の際の留意点に気づき、実践できる力の育成」の実際

本時では、「卒業記念 Instagram にどんな写真を載せれば良いか」という課題を設定し、他者に配慮したメディアの使用について考えさせ、情報発信の際に気を付けるべきことに気付かせる活動を行った。

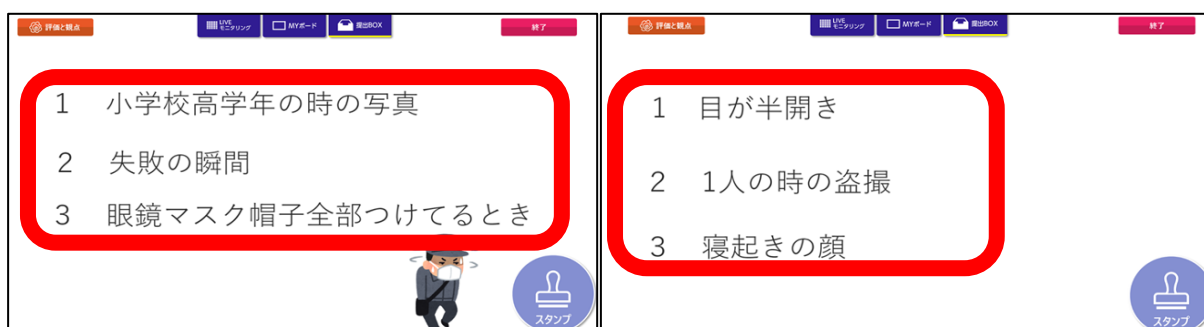
①グループで Instagram に投稿したい画像を考える。

授業や休み時間の様子など、事前にタブレットで撮影したものを共有し、Instagram に投稿して良いか否かをグループで協議した。その際、思考ツールを活用し、意識の「ずれ」を認識しやすかった。



②Instagram に投稿してほしくない事項を考える。

次に、生徒間にある意識の違いを認識させるために、自分が Instagram に投稿してほしくない事項をランキング形式で共有させた。「目が半開きになっている顔」など自分の容姿を細かく気にする人、「過去の自分」など基準が曖昧な人、または「何を載せても良い」という意見を持つ人もいた。このことから、個人によって意識するポイントが様々であり、SNS に載せて良いものに「ずれ」があることを認識した。



③情報を発信する際に気を付けるべきことを考える。

グループで、Instagram に画像を投稿する際に気を付けることを話し合い、共有した。その結果、SNS に投稿する際には、自分だけでなく他者への配慮が必要であることを理解し、投稿した写真が誰かを傷つける危険性や、投稿する写真に写る人だけでなく、その投稿を見る第三者への配慮も必要であることに気付くことができた。



(3) 研究協議会の様子

指導助言者・・・・・・・・・・・・・・・・・・医療創生大学心理学部 教授 中尾 剛 様

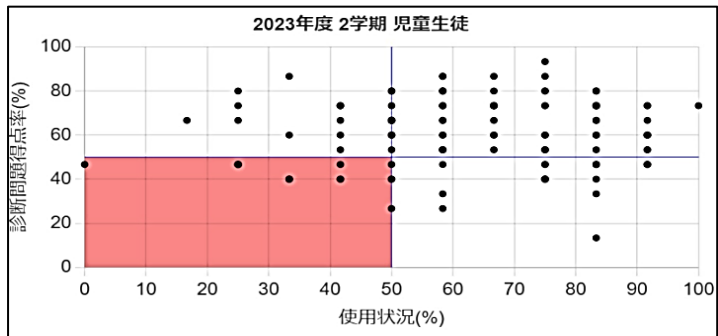
〈指導助言について〉

・メディアリテラシー教育、情報モラル教育、デジタルシティズンシップ教育は、情報化社会で生きるために必要な3つの教育である。また、これらの教育をとおして、「自制する力」や「真偽を見極める力」、「メディアを適切に選べる力」の醸成を図る必要がある。また、その実現には生徒と学校、家庭が連携していくことが不可欠である。



3 全学年 「ふくしま情報モラル診断」の実施（12月）

生徒の情報モラルの定着度合いを図るため、「ふくしま情報モラル診断」を実施した。その結果、2年間に渡る本事業の中で取り上げた項目については得点率が高くなっており、研究における一定の効果が見られた。「フリーWi-Fi」や「コンピューターウイルス」に関する知識が全体的に浅いので、次年度以降の教育課程に位置付け、学びの場を設けたい。



<p>公共的なネットワーク社会の構築 43%</p> <p>全話が無料で読むことができる漫画サイトを見つけました。正規のサイトではないと思いましたが、前から気になっていた漫画がただで読めるのでダウンロードしました。このことについての説明として適切なものをすべて選びましょう。</p> <p>78%</p>	<p>情報セキュリティ 54%</p> <p>クレジットカード会社や銀行の名前で、「口座の本人確認のため、IDとパスワードを入力してください」という内容のメールが届きました。正しい対応法はどれでしょうか？</p> <p>59%</p>
<p>あるアニメ作品について「このアニメ最強！他のどんなアニメよりも勝れる！」というコメントをしている人をSNS上で見つけました。しかし、自分はそのアニメがあまり好きではありません。その人へのコメントとして適切なものをすべて選びましょう。</p> <p>31%</p>	<p>みなさんが社会人になると、仕事を進めるうえでメールを使う機会が増えます。たとえば、あなたが会社員なら、同じ内容のメールを複数の会社、複数の顧客に送る場面があります。その際の注意点として、最も適切なものはどれでしょうか？</p> <p>54%</p>
<p>またちか 最近、今いる場所がフリーWi-Fiスポットになっていることが分かりました。この時、Wi-Fiへの接続方法として適切なものをすべて選びましょう。</p> <p>20%</p>	<p>コンピュータウイルスにはいろいろな種類があります。コンピュータウイルスの説明として適切なものはどれでしょうか？</p> <p>49%</p>

Ⅲ 成果と課題について

1 成果

- 昨年度の反省を活かし、タイムマネジメントや情報発信の際の留意点など、より自分事として考えられる課題を設定することで、自ら考えて行動する「自律」への転換の一助とすることができた。
- 情報モラル講演会や授業実践を、本校の保護者だけでなく学区の小学校にも案内を配布することで、小学校の先生方や保護者にも参観していただき、連携を進めるための課題を共有することができた。
- 生徒だけでなく、教員も様々な資料や書籍をとおして、情報モラル教育に関する視点を学び、授業実践として活かすことができた。

2 課題

- 昨年度の課題から、家庭との連携について検討してきた。今年度は、授業実践の事前調査に保護者向けのアンケートを実施し、その結果を授業に反映させたり、ホームページに授業の様子を投稿したりすることにとどまった。また、公開した授業も限られた保護者の参観だった。来年度は、中尾剛教授からのご指導を活かした形式で、生徒と学校、家庭の「つながり」を意識した取り組みを模索したい。
- ICTの活用については、各学年の情報教育担当教師を中心にICTサポーターとの連携のもと進めてきた。今後は、各教科での実践など学校教育全体において情報モラルの育成ができるよう、教育課程に位置付けていく。

【引用文献・参考文献・参考 URL】

- ・ 一般財団法人 LINE みらい財団. 「情報モラル教育教材『楽しいコミュニケーションを考えよう！写真編』」.
<https://line-mirai.org/ja/download/>, (参照 2023-11-08) .
- ・ 今度珠美・稲垣俊介 (2019) . 「スマホ世代の子どものための情報活用能力を育む情報モラルの授業 2.0」.日本標準.
- ・ 坂本旬・豊福晋平・今度珠美・林一真・平井聡一郎・芳賀高洋・阿部和広・我妻潤子 (2022) . 「デジタル・シティズンシップ+やってみよう！創ろう！よきデジタル市民への学び」.大槻書店.